＝　守りを固め・前へ　＝

日本における新型肺炎COVID-19・新型コロナウイルスの感染拡大から約３年半、完全解決とまではいかないが、感染法上の位置づけは５月８日から季節性インフルエンザと同じ「５類」に移行、今後の感染対策は個人の判断にゆだねられるまでになった。

私たちは約３年半におよぶコロナ禍で多くの経験をしてきた。なかでもコロナ感染により尊い命が失われるのを何度も耳にし、働くうえで、生活していく中で、そして、安心・安定を確立するうえで欠くことのできないものとして、「安全と健康」の大切さを痛感した方も多いだろう。

あらためて、長きにわたり、献身的に取り組んでこられた医療従事者や介護関係者、私たちの日常生活を守っていただいた多くのエッセンシャルワーカーの皆さんに、ともに感謝しなければならない。

コロナ禍以前の生活に戻ることは望めないが、厚生労働省の専門家会合が示した感染対策「５つの基本」、①体調不安や症状があるときは自宅で療養するか医療機関を受診すること　②その場に応じたマスクの着用やせきエチケットの実施　③３密を避けることと換気　④手洗い　⑤適度な運動と食事、新たな健康習慣を徹底していけば、旅行にレジャー、スポーツをやる人も見る人も、みんなの笑顔が戻ってくるだろう。その楽しみのために仕事にも精を出し、経済が活性化してくれば、社会全体が明るくなるはず。

そんなわくわく感のなかで、コロナ禍では開催できなかった各組合の周年行事が時期を少し遅らせて催されている。60年の歴史を数える組合や、企業の合併等にあわせた組織統合から10年の組合など、それぞれの生い立ちや歴史を振り返り、さらなる飛躍を遂げる決意の場として盛り上がりを見せている。

その歴史には、長さや形こそ違え、働く仲間の安心・安定を築くために、産業・企業の生き残りをかけた経営諸施策に対応してきた先達の労苦が刻まれている。グローバル競争が激化するなかでは、世界の競合他社と伍し、凌駕していくために、事業の統廃合や合理化、設備休止、それに伴う出向・転出措置や社外応援など、懸命の努力を積み重ね、今の姿を作り上げてきたことは共通するもの。

足もと、私たちの行く先にも、かつてとは形も質も違う大きな課題が横たわっている。資源・エネルギー問題、第４次産業革命といわれるデジタル社会の到来、さらにはカーボンニュートラル・脱炭素社会への挑戦、そしてダイバーシティ・女性活躍も含めた人財確保と定着など。資源の乏しいわが国ものづくり産業の宿命かも知れないが、その課題も多種多様。

しかし、逃げることはかなわない。先達の熱い思いを引き継ぎ、諸課題を克服していかなければ、組合員とその家族の幸せ追求は進めようがない。働く仲間の安心・安定を築いていくために、先を見据えた企業戦略と職場の理解と行動、健全な労使関係のもとでの力合わせがあってこそ、事は成し得るということを、周年行事の語らいであらためて胸に刻んだ。

そんな中、42県本部・県センターの仲間とのふれあい対話集会がはじまった。対面での懇親も可能になり、歴史に学ぶことの大切さを伝えられる絶好のチャンスでもある。感染防止を意識しつつ、久々の対話に参加者の目も輝いている気がする。

６月、蒸し暑い梅雨期を迎える。近年いたるところで発生する豪雨、そして、いつどこで起こるかわからない地震、人知の及ばぬものもあるが、体調管理はもちろんのこと、職場で、家庭で、安全・防災について話し合う良い機会かもしれない。

備えよ天災、起こすな人災。夏場に備えて、体力づくりも忘れずに。

ご安全に

2023年６月１日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長　神田 健一